

幼稚園では教育課程の編成にあたって どのような要因を考慮しているのか

山崎 晃

(2004年9月30日受理)

A study of construction of the kindergaten curriculum

Akira Yamazaki

In this paper, the processes of construction of the kindergaten curriculum were investigated on the attached kindergaten of national universities, public kindergaten, and private kindergaten. The points of view of this research were follows: (1) almost kindergatens were creating the curriculum. (2) many of private kindergatens had not received instruction in the 3rd person in curriculum creation. (3) the contents which should be taken into consideration in the case of instruction planned creation changed with kindergatens. (4) in many sides about curriculum creation, it changed with national universities attached kindergaten, public kindergaten, and private kindergatens.

Key words : kindergaten curriculum, early childhood education, related factors

キーワード：教育課程, カリキュラム, 幼児教育

平成12年度から「幼児期教育カリキュラム開発に関する基礎的研究」プロジェクトを立ち上げた。この研究プロジェクトは、教育学ならびに心理学の立場から幼児教育の総合的・実証的研究を推進するためのものである。このような研究を行う背景としては、次のような時代的要請がある。

1. 急激な環境変化に対応した幼児教育課程・保育カリキュラムを開発するための基礎的・総合的研究が必要であること。
2. 幼稚園教育要領および保育所保育指針の改訂が行われたこと。
3. 幼児教育・保育の当面する課題をとらえ、教育課程や保育カリキュラムおよび指導方法の改善を図る必要があること。

さらに、平成12年4月には幼稚園教育要領が施行され、保育所保育指針も時を同じくして、平成12年4月から新しくなった。このような幼稚園教育や保育所保育の根幹に関わる変更はおおよそ10年間隔をもって行われている。現在もこのような幼児教育・保育環境の変化や時代や社会のニーズの変化に対応した幼児教育カリキュラムはどのようにあるべきかについて、研究はほとんど行われていない(民秋, 1985)。

本研究はこのような事情を背景として行われる基礎的研究の一環をなすものである。

一般的に、それぞれの幼稚園にはそれぞれ異なった教育課程がある。ここでは、教育課程を保育の中で展開される幼児と保育者との相互作用を規定する基本的な役割を果たすものとしてとらえ、それについて考えてみることにする。

本研究はそのような幼児教育・保育に大きな変化をもたらす教育要領の変更に伴うであろう教育課程の編成に関わるさまざまな問題を探ろうとする研究である。特に、日本における幼稚園の教育課程・指導計画の実態をとらえるとともに、それに関わる問題点や検討すべき事項は何であるのか、あるとすればどのような実態であるのかを明らかにすることとする。すなわち、本研究は幼稚園の教師が教育課程や指導計画をどのようにとらえているか、教育課程の編成するにあたってどのような問題点があると認識し、どのようにそれを克服してゆくかに関する基礎的研究である。

さらに、研究を進めていく上で、

- ・就学前教育の教育課程・指導計画の評価と開発
- ・遊びと幼年期の教育課程・指導計画との関わり
- ・保育内容と教育課程・指導計画

- ・領域（健康、人間関係、環境、言葉、表現）と教育課程・指導計画との関連
 - ・教育課程・指導計画内にどのような遊びがどのように位置づけられているか
 - ・基礎となる理論に基づく（理論をもった）教育課程・指導計画の編成か否か
 - ・就学前教育課程・指導計画とその後の行動（小学校入学以降の行動・成績との関連）
 - ・教育課程・指導計画は発達とどのように関連づけられているか
 - ・教育課程・指導計画に就学前教育・家庭教育の支援との関係
 - ・長期及び短期プログラムの開発
- などが考慮すべき事項としてあげられる。

保育という営みは、幼児の実態に基づいた指導・援助である。その指導・援助は、教育課程並びに指導計画に規定される。本研究は、その教育課程の編成について、特に、日本における幼稚園の教育課程の実態とその問題点を明らかにする。

教育課程の編成とは、一般的には、園長の責任において、教育法規や幼稚園教育要領に準拠し、幼児の実態（幼児の心身発達の実情、家庭環境、生育歴、興味や欲求の傾向、経験など）、幼稚園の実態（保育年限園地・園舎の状況、施設・設備、園の規模、クラス編成、保育者など）、地域の実態（地域環境、自然環境、社会環境、社会的施設、歴史的背景、教育的背景）に基づき、保育目標を設定し、保育方針を定めることをいう（小川、1992）。つまり、既存の法規や要領を考慮しつつ、目の前の幼児をとりまく現実を把握・分析し、どういった保育を行うかといった大きな枠組みを作る作業をさす。

一方、指導計画の編成とは、上記の教育課程で定めた目的を達成するための具体的な方策、を考案するために行われる（小川、1992）。いわゆる、日案、週案、月案といった案の編成がこれにあたる。この作業を行なう際には、当然のことながら、幼児をとりまく環境の把握・分析が十分に行われる必要がある。

以上のように、教育課程とは保育の目的を定めたものであり、指導計画とは教育課程で定めた目的を果たすための実践案のことをいう。したがって、どのような点に留意して教育課程が編成されたかが指導計画の内容に影響するはずである。それ故、教育課程とは、保育の中で展開される幼児と保育者との相互作用を規定する基本的かつ重要な役割を果たすものである。教育課程の編成という作業は、保育活動の根幹をなす極めて重要な作業である。しかしながら、日本の保育の現場（特に、幼稚園）において、どのようにして教育

課程が編成されているかについては、十分な調査が行われおらず、いかなる点に留意して教育課程が編成されているのかさえ不明である。そこで、本研究では、日本の幼稚園において教育課程がどのような点に留意して、編成されているのかを明らかにすることを第1目的とする。

また、教育課程が編成されていたとしても、それが保育活動のなかで機能していないことも予想される。現行の法規上、公立の幼稚園の場合、教育課程の編成は義務づけられている（私立の幼稚園の場合、教育課程の編成は推奨されているが、義務化されていない）。したがって、設置基準を満たすために、全ての公立の幼稚園では、公式的には教育課程を有するはずである。しかしながら、教育課程を有することと、それが実際の保育活動において機能していることは別問題である。それぞれの幼稚園には教育課程はあるものの、それが保育活動において生かされているか、指導計画にどのように反映され、日常の保育に考慮され、生かされているかを明らかにするために、実際の保育活動に強く影響する指導計画の立案時に考慮するもの、参考にする点について調べることを第2目的とする。

なお、上述したように、教育課程の編成は公立では義務化されているが、私立では推奨されるにとどまっている。このように公立と私立とでは、法規上にちがいがあり、そのちがいが教育課程の編成にも影響を及ぼすことが十分に予想される。また、公立のなかには、国立の幼稚園があるが、国立の幼稚園の場合、研究園・モデル園といった他の園とは異なる設置目的をもっている。このような設置目的や役割のちがいも、教育課程の編成に影響を及ぼすことも十分に予想される。そこで、本研究では、国立、公立、私立という設置主体ごとの分析を行なうこととする。具体的には、まず、幼稚園教諭にインタビューを行い、その結果を基に指導計画や教育課程についての質問項目の作成と選定した。

次に、幼稚園・保育所に対して、教育課程や指導・保育計画に関する質問項目を作成し、予備調査を行い、その結果を踏まえて、さらに質問項目を選定した。予備調査の結果、保育所と幼稚園では「カリキュラム」のとらえ方が違っていたので、本研究では幼稚園のみを対象とすることとした。

方 法

■質問内容

設立主体、保育担当者の構成（クラス数、幼児数、

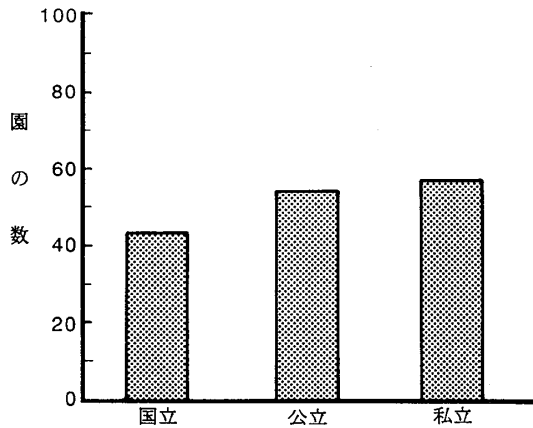


図1 回答した設置主体の数

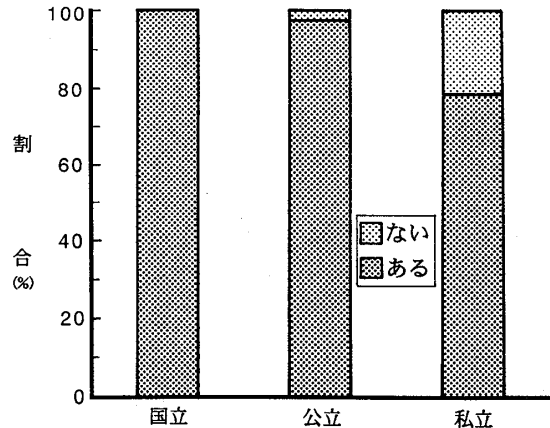


図2 教育課程の有無

勤務年数等), 教育課程・指導計画の有無, 指導計画作成時に考慮する点, 指導計画作成時に参考にしたもの, 教育課程や指導計画作成時期, 教育課程が必要とされる理由, 教育課程が必要であるとする理由, 教育課程作成時に指導を受けたか否かなど(詳細は付録参照)。

■ 記入者

記入は, 園長, 副園長, 主任など責任を持った立場の人に依頼した。

■ 配布方法と回収率

質問紙は郵送及び教育委員会等を通じて配布し, 各幼稚園で, 責任者に記入してもらった後, 郵便での返送を依頼した。なお, 国立大学附属幼稚園はすべての国立大学附属幼稚園49園, 広島県内の公立・私立幼稚園全園351園に配布した。

配布数は400部, そのうち郵送による返送があったものは165部(回答率41.3%), そのうち有効な回答として分析の対象となったものが156部(39.0%)であった。

結果と考察

■ 設置主体について

回答のあった幼稚園の設置主体の実数を示したものが図1である。回答があった園の数には大差なかった。したがって, 設置主体の数のアンバランスによるバイアスはないとみなすことができるので, 以後の分析においては, 設置主体の変数を独立変数とすることとした。

国立大学附属幼稚園の回答率は88%で最も高く, ついで公立(約40%), 私立(約30%)の順であった。国立大学附属幼稚園の回答率の高さは, 幼児教育にお

ける国立大学附属幼稚園の使命・役割が十分に意識され, その結果であるとも考えられる。その一方で, 私立幼稚園の回答率は低いものであった。その理由として, このような調査に関する拒否的な反応があるようである。すなわち, このような調査が対象となる幼稚園の質や保育の質を問うことになり, 結果的にその幼稚園が評価されることにつながりかねないという懸念があるのではないだろうか。この種の調査においては, 時にそのような傾向が生ずるかもしれない。

■ 教育課程があるか否かについて

設置主体ごとに教育課程があるか否かについての回答をまとめた。その結果, 国立や公立幼稚園では, ほとんどの園が教育課程を有するが, 私立幼稚園では, 教育課程をもたない園が20%以上があることが分かった。なぜ教育課程が作成されていないのかについての理由は, 明らかではないが, 最近の保護者等への説明責任という観点から考えるならば, このような説明を放棄するという傾向は改められるべきであろう。教育課程は当該園の教育の根幹をなすものであるもので, 指導計画, 指導案などのすべての保育活動の基礎となるものであることを考えるなら, 早急に整備すべきことであろうし, 教育行政の施策とも絡んで早急に解決されるべき問題であろう。

■ 教育課程編成時に指導を受けたか否か

本来教育課程を編成するのはそれぞれの幼稚園であるので, 編成に当たっては当該園の関係者が中心となるべきものである。しかしながら, その幼稚園の規模にもよるが, 編成作業に関わることができる関係者の数は一般的にはそれほど多いものでないと考えられる。そうであるなら, ややもすると力の強い者, 管理職や主任などの一人のあるいは少人数の意見に基づいて教育課程の編成がされることになりやすくなる。こ

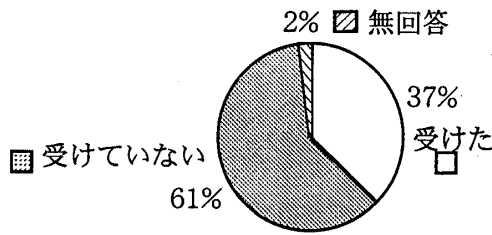


図3-1 作成時の指導 (国立)

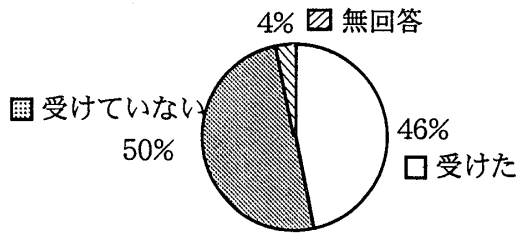


図3-2 作成時の指導 (公立)

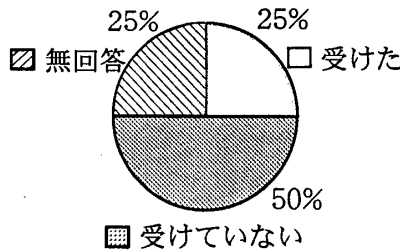


図3-3 作成時の指導 (私立)

のような姿があるとすれば望ましい姿とはいえないように思われる。従って、そのようなことにならないようにするためには、当該園以外の幼稚園教育に関わりを持った専門家の参加が望まれる。その意味から、より多面的な視点から教育課程を編成しようとするときに関係者の、特に園外関係者の関わりをどのようにするかは重要な課題であるといえよう。

そこで、教育課程を編成するときに、園外の関係者に指導を受けたかについて検討した(図3-1, 3-2, 3-3, それぞれ国立, 公立, 私立に対応)。その結果、園外関係者に指導を受けたという回答率はどの設置主体であっても50%以下であった。最も高かったのは公立幼稚園であったが、それでも46%、国立幼稚園では37%、私立幼稚園においては25%であり、かなり低いものであった。教育課程はそれぞれの幼稚園に独自のものがあるので、その意味から当該幼稚園以外の第三者による指導は必要ないとも言えるが、そ

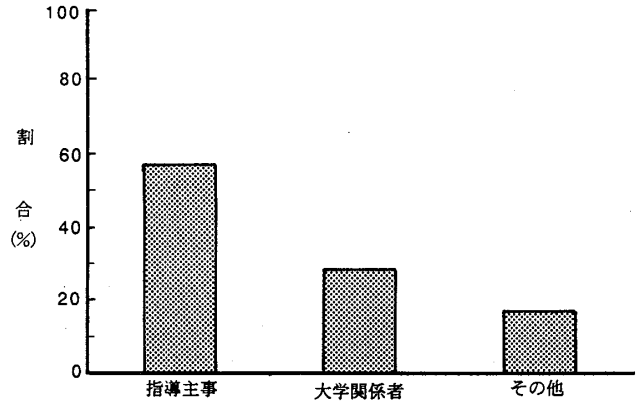


図3-4 指導者の内訳とその割合 (全体)

れは結果的に教育課程についても、あるいは指導計画についても独断的なものになる可能性を含んでいるといえ、必ずしも望ましいものではない。

設置主体ごとに各園のスタッフ以外の指導を受けなかった園の割合は、国立大学附属幼稚園では60%以上、公立幼稚園では50%以上、私立幼稚園では50%が指導を受けていなかった。また、私立幼稚園では無回答が25%あった。教育課程を編成するにあたって、誰かに指導を受けたかについては、指導主事から指導を受けたという回答がもっとも多かった。大学関係者の指導を受けたという回答の大半の幼稚園は、国立大学附属幼稚園であり、大学と附属幼稚園との関連が強いことを示していると考えられる。しかし、ここでも自分の園だけで編成することが多いことが示された。

■ なぜ教育課程が必要であるのか

なぜ教育課程が必要であるかという理由(複数回答)について調べた。その結果、全体的には、見直しを持った保育をするため、教育目標を達成するため、保育の一貫性を保つため、指導計画立案のため、に必要であると考えている園の割合が高く、自分の保育を見直すためという割合は5割以下であった。自分の保育を見直すことと評価とは密接な関係があるが、国立・公立・私立を問わず約40%というのは、憂慮すべき状況といえるであろう。また、教育課程は指導計画と密接に関わりを持つと考えられるが、この点についての回答率もそれほど高いものではない(約60%)。教育課程に沿った、あるいは教育課程に基づいた指導計画は移管性のある、また、発達や育ちの見直しを持った保育を行うためには欠くことのできないことがらであると思われる。このようなことから、すべての幼稚園における教育課程・指導計画の早期の整備が望まれるところである。

設置主体の違いによる回答割合に関しては著しい差

幼稚園では教育課程の編成にあたってどのような要因を考慮しているのか

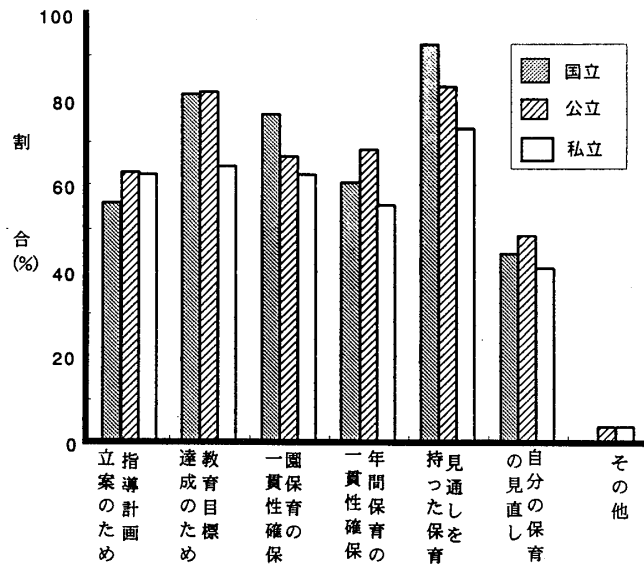


図4 教育課程が必要である理由（設置主体別）

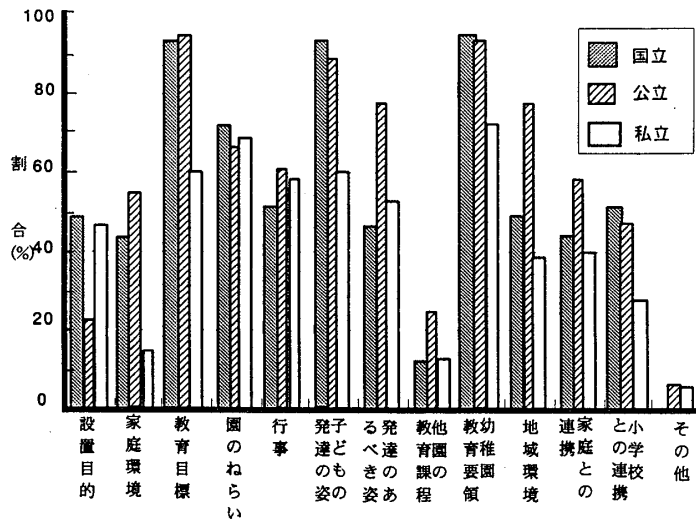


図5 教育課程作成時の考慮点（設置主体別）

異はみられなかったが、指導計画立案のための項目を除いて、私立幼稚園での割合が低くなっていた。特に、教育目標を達成するため、見通しを持った保育のための項目については、国立大学附属幼稚園や公立幼稚園に比べて、私立幼稚園では考慮しない園が多くなっていた。

■ 教育課程を編成する際に考慮する点

教育課程を編成するにあたって、どのような事柄を考慮するかについては、子どもの発達、教育目標、幼稚園教育要領に関しては、国立大学附属幼稚園と公立幼稚園の約90%が考慮すると回答していた。特徴的なことは、私立幼稚園では、国公立幼稚園と比べて、教育目標、子どもの発達、幼稚園教育要領、家庭環境、

小学校との連携、について、考慮している幼稚園の割合が低かった。

また、公立幼稚園では、地域や家庭との連携をはかる、発達のあるべき姿を考慮すると回答した幼稚園の割合が他の設定主体の幼稚園に比べて高かった。地域に密着した、あるいは根ざした幼稚園という役割の強さを示していると言えよう。

このように、同じ教育課程を編成するにあたって、考慮すべき事柄のどのことに重点を置くかについては、設定主体による差異がみられた。このような違いは、実際に編成された教育課程の内容にどのような違いをもたらすものであろうか。この点についてはさらなる研究によって明らかにする必要がある。

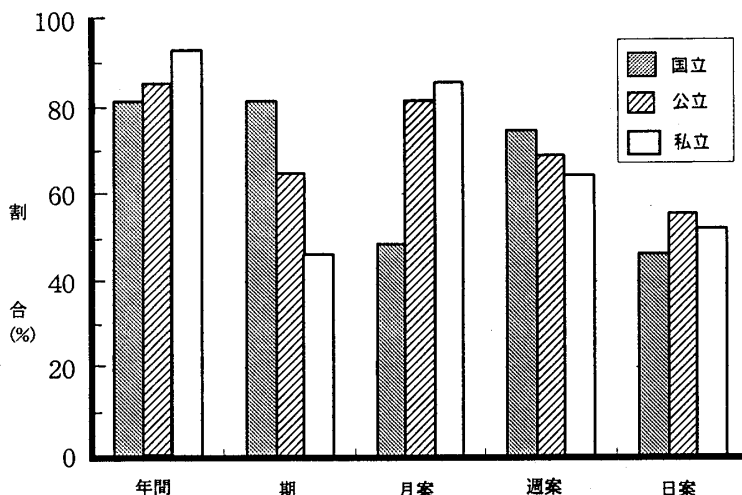


図6 編成された指導計画の種類

■ どのような期間の指導計画が編成されているか

年間指導計画は、回答した幼稚園のうち、80%以上の幼稚園が作成していると回答していた。この点について設置主体別に比較したところ、年間計画についてはほとんど差はみられないが、期に分けた指導計画については、国立大学附属幼稚園、公立幼稚園、私立幼稚園の順に高く、私立幼稚園では期に分けられた指導計画を編成しているところは50%以下であった。

月案については、期に分けた指導計画とは対照的に、公立幼稚園、私立幼稚園の割合が高く、国立大学附属幼稚園では約50%の園で作成していた。日案については、国立・公立・私立のうちどの幼稚園も約50%の幼稚園が作成していた。指導計画の作成については、それをどのようにとらえどのような形で作成するかについては、相当な議論が必要である。細かな指導計画が立ててあることが望ましいという考え方も

あるが、それは別な見方をすると幼児の行動を妨げることにもなるという考え方も可能である。それとは反対に、大まかな指導計画では、環境設定などとの関係が十分ではなくなる危険性があるという考え方もできるが、自由度が高いので、実際の保育においては臨機応変に対応することができ、対象となる子どもにとってはその方がいいという考え方もできる。

■ 指導計画を編成するにあたって考慮すべき事項

指導計画の作成にあたって考慮すべき事項としてあげられたものは、幼稚園教育要領、それぞれの幼稚園の教育目標、それぞれの幼稚園のねらい、子どもの発達などであり、設置主体によるちがいはみられなかった。地域の環境については公立幼稚園で考慮される割合が高く、行事については、どの設置主体の幼稚園も高いが特に私立幼稚園では高くなっている。また、家

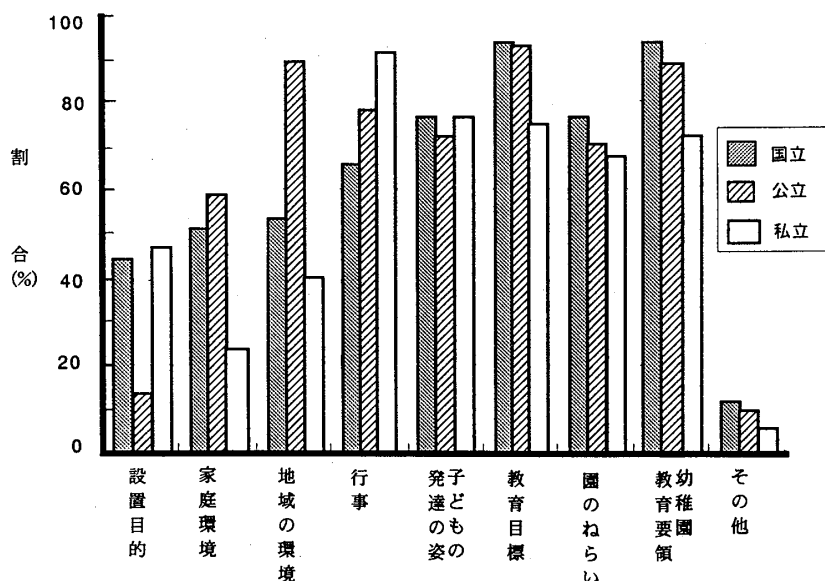


図7 指導計画作成時に考慮する事項

幼稚園では教育課程の編成にあたってどのような要因を考慮しているのか

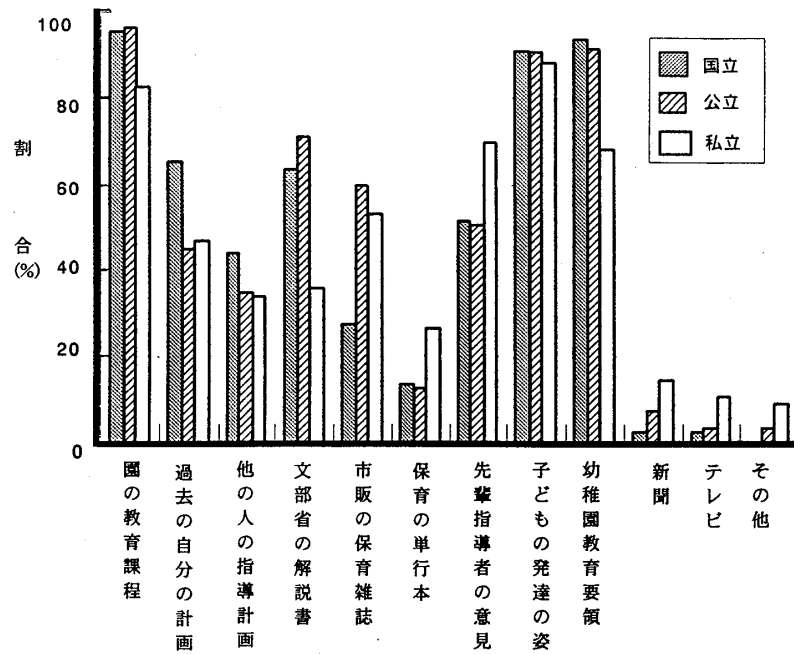


図8 指導計画を編成の際に参考にする事項

庭環境については、国立大学附属幼稚園と公立幼稚園では約50%が考慮すると答えているが、私立幼稚園では約20%であり、大半の私立幼稚園では指導計画編成時には考慮されていないことがわかる。同様のことは、私立幼稚園と国立大学附属幼稚園において地域環境が考慮される割合が低いことについても言える。

■ 指導計画編成時に参考にする事項

指導計画を編成する際に、参考にする事項としてそれぞれの幼稚園の教育課程、子どもの発達の姿、幼稚園教育要領がほとんどの幼稚園で挙げられている。特に、国立大学附属幼稚園や公立幼稚園においては90%以上が参考にしてている。国立大学附属幼稚園においては過去の自分の指導計画を参考にするという回答が約70%あったのに対して、公立幼稚園や私立幼稚園においては30%強の回答であった。また、他者の指導計画を参考にする割合についても国立大学附属幼稚園の回答の割合が高かった。

また、私立幼稚園においては、幼稚園教育要領を参考にするという回答は約70%であり、国立大学附属幼稚園や公立幼稚園に比べていくらか低い傾向にあった。対照的に、市販の保育雑誌、先輩や指導者の意見を聞くという回答が私立幼稚園においては高い割合であった。

おわりに

保育カリキュラムが実際に必要か田舎に関しては

様々な議論がある（平井，1985；小川，1991，1992；小川，西久保，大場，1985）。しかし、本研究から明らかになったように、依然として保育カリキュラムが整備されていない幼稚園が現実に存在することを考えるなら、なぜ保育カリキュラム存在しないのかの理由を詳細に明らかにする必要がある。また、もう一つの問題点は設置主体による教育課程や指導計画に対する認識の違いがあることである。幼児教育を受ける側、すなわち、幼児の側からすればどのような教育課程に基づいて、どのように日常の保育がなされるのかを知ることが子どもたちのよりよい保育環境を整えるための基礎的条件の一つであると考えられる。その意味から、それぞれの幼稚園は、設置主体による独自性を保ちながら、かつ共通のしかも質の高い保育を受けるためには、どのような教育課程・指導計画をもって、そのような保育を目指しているかについての情報を提示する必要がある。具体的方法としては、シラバスを作成し、公表することがその問題に対応することになると思われる。

現在幼稚園教育を取り巻く環境は急激に変化してきており、まさに改革、革新の時代である。本研究が、今後の幼児教育に役立つような研究を進めていきたいと思う。理論研究と実践研究の融合をはかっていくという研究の姿勢も持っている。今後の研究の方向を探る上で、さらに研究を発展させる意味でもこの報告書が礎となることを祈念したい。

【参考・引用文献】

- 小川博久・西久保禮造・大場牧夫 1985 保育カリキュラムの現状と問題点 保育研究, 6, 8-23.
- 小川博久 1991 保育援助論序説 ―保育において「指導とは何か」 保育研究, 12, 27-38.
- 小川博久 1992 保育援助論・その2 ―保育において教育課程・指導計画を立てる意味は何か 保育研究, 13, 41-55.
- 平井信義 1985 ノーカリキュラム論の本旨 保育研究, 6, 1-7.
- 民秋言 1985 保育カリキュラムについてのアンケート調査報告 保育研究, 6, 24-37.

幼稚園では教育課程の編成にあたってどのような要因を考慮しているのか

付 録

調査紙の記入はクラス担任ではなく、理事長・園長・所長・副園長・次席のいずれかの方をお願いいたします。

★貴園の構成をお伺いします★

Q 1 あてはまるものに○をつけてください。

公立

私立：学校法人・福祉法人・宗教法人（仏教・キリスト教・神道）その他（ ）

Q 2 記入者はどなたですか？あてはまるものに○をつけてください。

理事長 ・ 園長 ・ 所長 ・ 副園長 ・ 次席 その他（ ）

Q 3 クラスの形態は縦割りですか？横割りですか？あてはまるものに○をつけてください。

(1) 縦割り (2) 横割り (3) 縦割りかつ横割り

Q 4 各年齢のクラス数と全体の人数と直接保育を担当されている先生方の人数を教えてください。

乳幼児		教諭・保育士
1歳未満児 ()	クラス () 名	常勤 () 名・非常勤 () 名
1歳児 ()	クラス () 名	常勤 () 名・非常勤 () 名
2歳児 ()	クラス () 名	常勤 () 名・非常勤 () 名
3歳児 ()	クラス () 名	常勤 () 名・非常勤 () 名
4歳児 ()	クラス () 名	常勤 () 名・非常勤 () 名
5歳児 ()	クラス () 名	常勤 () 名・非常勤 () 名

★指導計画についてお聞きします★

Q 5 貴園の指導計画で該当するものに○をつけてください。

年間 (1) ある (2) ない

期 (1) ある (2) ない

月案 (1) ある (2) ない

週案 (1) ある (2) ない

日案 (1) ある (2) ない

Q 6 指導計画を立てる際に考慮する事項に○をつけてください（いくつでも）。

(1) 貴園の設置目的 (8) 幼稚園教育要領

(2) 家庭環境 (9) その他

(3) 地域環境

(4) 行事

(5) 理想的な子どもの発達の姿

(6) 教育目標・保育目標

(7) 貴園のねらい

Q 7 指導計画を作成する際に参考にする事項すべてに○をつけてください（いくつでも）。

(1) 貴園の教育課程 (9) 幼稚園教育要領

(2) 過去の自分の計画 (10) 新聞

(3) 他の人の作った計画 (11) テレビ

(4) 文部省・厚生省の解説書 (12) その他

(5) 市販の保育雑誌

(6) 保育に関する単行本

(7) 先輩や指導者の意見

(8) 子どもの発達の姿

Q 8 現在の年間指導計画はいつ作成されましたか？

() 年 () 月作成

Q 9 年間指導計画の作成上で留意した点を挙げてください。

(例えば、子どもの発達の姿など。)

★教育課程についてお聞きします★

Q10 教育課程が必要だと思う理由はどれですか？該当する事項すべてに○をつけてください。

- (1) 指導計画をたてるため
- (2) 教育目標達成のため
- (3) 園全体の保育を一貫したものにするため
- (4) 年間を通しての保育を一貫したものにするため
- (5) 見直しをもって保育をするため
- (6) 自分の保育を見直すため
- (7) その他 ()

Q11 教育課程を立てる際に考慮した事項について○をつけてください。(いくつでも)。

- (1) 貴園の設置目的
- (2) 家庭環境
- (3) 教育目標
- (4) 貴園のねらい
- (5) 行事
- (6) 子どもの発達の様
- (7) 子どもの発達のあるべき姿
- (8) 他園の教育課程
- (9) 幼稚園教育要領
- (10) 地域環境
- (11) 家庭との連携
- (12) 小学校との連携
- (13) その他

Q12 貴園に教育課程はありますか？あてはまる方に○をつけてください。

- (1) ある
- (2) ない

Q13 現在の教育課程はいつ作成されましたか？

()年()月作成

Q14 教育課程を作成する際に、指導を受けましたか？また指導したのは誰ですか？

指導を (1) 受けた (2) 受けない
受けた場合 指導者 (1) 指導主事 (2) その他 ()

Q15 教育課程作成上で留意した点を挙げてください。